

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育の思想と歴史 History of the development of early childhood education		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理 教育方法論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教育課程概説 教職実践演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	講義棟2階	水・木・金の9時から16時(授業時間除く)		授業中に指示します
授業の概要				
アメリカとイタリアにおける就学前教育(保育)の思想と歴史を中心に講義し、日本の幼児教育、保育の改革の方向性を考究する。特に、イタリアのレッジョ・エミリア・アプローチの教育史的発展、(保育)思想、教育(保育)内容、教育(保育)方法並びにアメリカの全米乳幼児教育協会 (NAEYC)の「発達にふさわしい実践(DAP)」を踏まえてその課題にアプローチする。				
授業の目標				
○主としてアメリカとイタリアの幼児教育、保育の発達の歴史を時代背景とともにその特徴を説明することができるようにする。○主としてアメリカとイタリアの幼児教育(保育)思想に基づく幼児教育(保育)の目的、内容、方法の特質を修得できるようにする。○我が国幼児教育(保育)の現状を踏まえて主としてアメリカとイタリアの優れた考え方を参考にして、改善への新たな視点を見出すことができるようにする。				
授業の方法				
基本的には板書並びに配布プリントを中心とした講義形式で行うが、「調べる・考え得る学習」を重視した授業の展開を図り、発表やディスカッションも取り入れる。適宜各保育実践のDVDを視聴する。学期末にレポートの提出を求める。				
学習の成果(学習成果)				
○主としてアメリカとイタリアの幼児教育・保育の発展の歴史を俯瞰し、グローバルな視点で、日本の幼児教育、保育の歴史展開を総括することができる。○主としてアメリカとイタリアの幼児教育、保育の先端的教育(保育)実践の現状についての認識を深め、我が国の幼児教育、保育の課題解決に活用することができる。○併せて日本の幼児教育、保育のカリキュラムと方法の改善の方向性を提案することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と授業の進め方について説明 レポートについて説明 評価基準の説明			
第2回目	アメリカの就学前教育・保育運動のヨーロッパの起源			
第3回目	アメリカにおける幼児学校と家庭学校	フレーベルとドイツの幼稚園運動		
第4回目	アメリカにおける初期の公・私立幼稚園	アメリカにおける無償幼稚園運動と保育の論理		
第5回目	アメリカにおける公立幼稚園の創設	アメリカにおける私立保育学校の出現		
第6回目	アメリカにおける乳幼児教育(保育)の現状と課題			

第7回目	NAEYCの基本的見解、発達にふさわしい実践とは	発達にふさわしい実践のカリキュラムとは
第8回目	NAEYCの発達にふさわしい実践の基礎となる子どもの発達と学びの原理	
第9回目	発達にふさわしい物理的環境	発達にふさわしい社会的、情意的環境
第10回目	発達にふさわしい認知的、言語的環境	発達にふさわしい実践における遊びと発達の理論
第11回目	レッジョ・エミリア・アプローチの発展の歴史	ロリス・マラグッツイの教育思想
第12回目	レッジョ・エミリア保育実践の特徴①	創造性と共同性の実践哲学
第13回目	レッジョ・エミリア保育実践の特徴②	プロジェクト学習 エマージェント・カリキュラム
第14回目	レッジョ・エミリアの保育実践の特徴③	ドキュメンテーション アトリエスタとペダゴジスタ
第15回目	レッジョ・エミリア保育実践の特徴④	アトリエの空間 豊富な教材や素材 学びの共同体

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業で使われる教材を準備して授業に臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートもきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明)
レポート	30%	詳細に課題を探究し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明)
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	論述式である。設問に対する要求を満たし、内容もきちんとしており、更に授業内容の範囲を超えて自分の考え方が示されている。(詳細はガイダンス時に説明)
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

使用テキスト：特になし 適宜プリントを配布する。 参考図書：授業中に指示する。

履修上の留意点・ルール

目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等の持ち込み禁止。